

# ふくしま創生人財育成事業 「令和3年度ふくしま創生サミット」実施報告

## 1 概要及び目的

4月27日（火）に「ふくしま創生サミット」を福島県自治会館で開催した。昨年までは地区ごとに開催したが、他地区の生徒との交流を通し、生徒たちの視野をさらに広げるために、今年は福島市の自治会館を会場とし、全地区の県立高校が参加する形で開催した。当日は、各校から代表生徒各1人が参加し、自分たちが暮らす地域についての理解を深めた。

当サミットは、生徒たちが主権者として社会の中で自立するとともに、地域の課題解決に向けて他者と連携・協働しながら、主体的に考えて行動できる力を身に付けさせることで、地方創生の一員として郷土に貢献する人材を育てることを目的としている。

現在、地域課題探究活動は、全ての県立高等学校で実施している。各校での地域課題探究活動の取組を共有する場を設けることで、取組の意義や地域の魅力や課題を再発見するとともに、課題解決に向けた探究活動を継続する意欲を醸成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び全体の改善を目指すことも、当サミットの目的である。

## 2 当日経過

サミット当日は、各校から参加した代表生徒が、日頃の取組の様子や今後の地域の活性化を目指して、活発に意見を交わした。

午前中は、複数のグループに分かれ、各校が取り組んだ地域課題探究活動の共有を図った。午後からは、地区ごとに地域課題の解決に向けて、高校生の視点で地方創生・活性化に向けた『宣言』を作成し、全体会でグループ毎に発表した。協議の中では活発な意見交換や、多様な視点からの質疑応答も行われ、福島大学の前川直哉先生からは、「福島県は高校生の探究活動が日本一盛んな県であり、大人たちがそれを全力で応援している。この経験をもとに、仲間との連携を継続し、高校生が主体となって地域課題に取り組んでほしい。」との指導・助言をいただいた。

他校の探究活動や地域の現状を知るとともに、話し合いを通して学科や地域を越えて自分とは異なる様々な視点や考え方に触れることができ、自校での今後の取組に活かしたいという感想が出された。

以下に、当日の活動の様子をまとめましたので、各校において今後の地域課題探究活動の充実に役立てていただきたいと思います。



### 3 協議内容

#### (1) 各校における地域課題探究活動

##### 《地域課題関係》

- ・地域調査研究、課題発見、課題解決のための実践、作品制作
- ・地域の魅力再発見、地域活性化のためのビジネスプラン（田舎の未来プロデュース等）
- ・地域連携企画を含んだ校内イベント、自校の魅力発信
- ・地産地消による活性化、地元製品の消費拡大
- ・特産品、地域資源を活用した商品開発、セミナー等（桃、苺パン、和菓子、メニュー開発、イノベんとう等）
- ・地域の観光を発展させるためのPR活動
- ・伝統工芸品の保存プロジェクト、利用した作品制作・寄贈（遠野和紙、会津木綿等）
- ・観光客だけでなく、町民や老若男女が快適に利用できる道の駅をつくろう
- ・町カフェ、特産品の販売
- ・地元企業の調査（SDGsの視点も）

##### 《地域活動への参加・ボランティア活動関係》

- ・公共施設、地域イベントでのボランティア活動（イルミネーション、音楽祭、祭り、読み聞かせ、フェス、観光客ガイド、田んぼアート、ペットボトルツリー、子ども食堂、地域サロン、子ども見守り隊、支え隊等）
- ・清掃ボランティア
- ・不用品回収による寄贈活動（アルミ缶、ペットボトルキャップ、ジャージ等）

##### 《震災・復興関係》

- ・県内外での認識ギャップを埋めるために
- ・震災復興スタディツアー
- ・震災を語り継ぐ活動
- ・地域と廃炉について
- ・福島の食の安全と復興を全国にPRしたい
- ・津波ハザードマップから分かる地形

##### 《SDGs・環境問題関係》

- ・SDGsをテーマとした探究活動、目標実現に向けた取り組み（ジェンダー平等、環境等）
- ・エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ・温暖化防止活動を通して、これからのものづくり活動について考える
- ・家庭や日常生活でできる地球温暖化対策
- ・シビックプライドを形成する環境事業
- ・森林体験学習

##### 《社会問題関係》

- ・高齢化社会における高齢化施設での問題
- ・高齢者が買い物をしやすくするために

- ・福島県の医療費の格差をなくすにはどうしたらよいか
- ・保育士減少問題について
- ・魚食離れを解消する取り組み
- ・電車マナーの向上

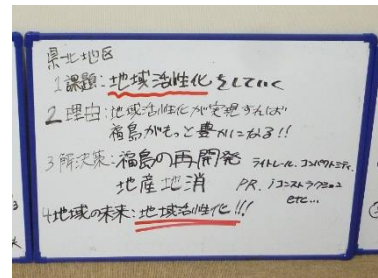
《その他》

- ・ドローンの活用性についての研究
- ・フェイスシールドの作成・寄付
- ・販売実習や企業との話合い
- ・一からカレーライスを作る
- ・姉妹都市交流事業への参加
- ・自主防犯意識や規範意識を高める
- ・「自分の生き立ち」を振り返る

(2) 私たちの地域の課題解決方法

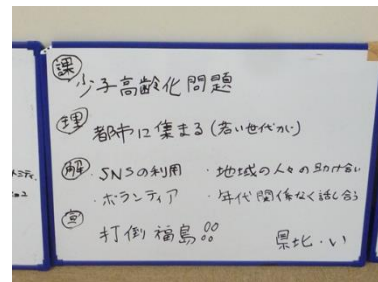
《県北地区①》

- ・課題：地域活性化をしていく
- ・理由：地域活性化が実現すれば福島がもっと豊かになる！！
- ・解決策：福島の再開発（ライトレール、コンパクトシティ）  
地産地消（PR、i コンストラクション）
- ・地域の未来：地域活性化！！



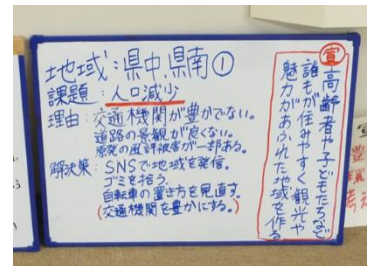
《県北地区②》

- ・課題：少子高齢化問題
- ・理由：都市に集まる（若い世代が）
- ・解決策：SNSの利用・地域の人々の助け合い  
・ボランティア・年代関係なく話し合う
- ・宣言：打倒福島！！



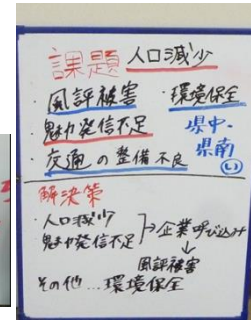
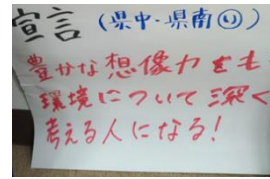
《県中・県南地区①》

- ・課題：人口減少
- ・理由：交通機関が豊かでない・道路の景観が良くない  
・原発の風評被害が一部ある
- ・解決策：SNSで地域を発信・ゴミを拾う・自転車の置き方を見直す（交通機関を豊かにする。）
- ・宣言：高齢者や子どもたちなど誰もが住みやすく観光や魅力があふれた地域を作る。



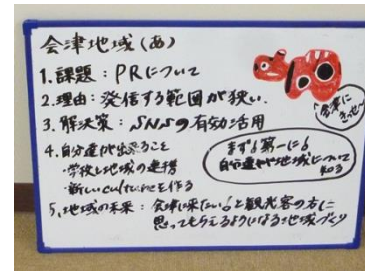
《県中・県南地区②》

- ・課題：人口減少・風評被害・環境保全・魅力発信不足
  - ・交通の整備不良
- ・解決策：企業呼び込み・環境保全
- ・宣言：豊かな想像力をもち環境について深く考える人になる！



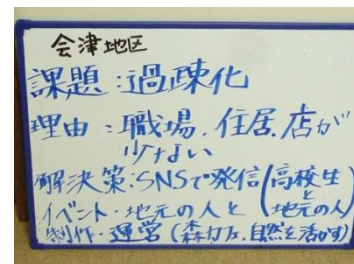
《会津地区①》

- ・課題：PRについて
- ・理由：発信する範囲が狭い
- ・解決策：SNSの有効活用
  - 自分たちが出来ること
    - ・自分たちが地域について知る／学校と地域の連携／新しい culture を創る
- ・地域の未来：会津に来たい！と観光客の方に思ってもらえるようになる地域づくり



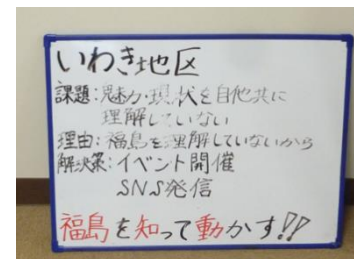
《会津地区②》

- ・課題：過疎化
- ・理由：職場・住居・店が少ない
- ・解決策：SNSで発信（高校生と地元の人）
- ・宣言：イベントを地元の人と制作運営（森カフェ・自然を活かす）



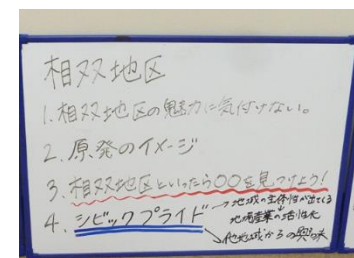
《いわき地区》

- ・課題：魅力・現状を自他共に理解していない
- ・理由：福島を理解していないから
- ・解決策：イベント開催・SNS発信
- ・宣言：福島を知って動かす！！



《相双地区》

- ・課題：相双地区の魅力に気付けない
- ・理由：原発のイメージ
- ・解決策：相双地区といたら〇〇を見つけよう！
- ・宣言：シビックプライド（→地域の主体性が出ている
  - 地場産業の活性化
  - 他地域からの興味



#### 4 アンケート集計結果

(1) 協議①・発表①について、グループ内での協議・発表は、今後のあなたの活動の参考になりましたか？

1 とても参考になった	2 参考になった	3 あまり参考にならなかった	4 参考にならなかった	5 無回答
82.1%	16.7%	0%	0%	1.2%

(2) 協議②・発表②について、協議・発表をとおして、あなたは、高校生としてできることは、どのようなことだと考えましたか。また、地域の課題解決に向けた探究活動として、今後、あなたはどのような活動を行いたいと思っていますか。

- ・ 地域課題や地域の魅力を認識し、できることを検討し、大人に提案し、実行に移す。
- ・ 自校生徒をはじめ他の高校や、市町村・県と意見交換をし、協力する。
- ・ イベントを行う、SNSやインターネットで情報発信・PRする。
- ・ 地元の特産品を用いて商品化する。
- ・ ボランティアや地域の活動に参加する。
- ・ 活動を継続する。
- ・ イノベーションコースト構想・SDGsに力を入れる。

(3) 今日のサミットについて、御意見や御感想があれば御記入ください。

- ・ 福島県の高校生が地域のために考え、行動していることがわかった。
- ・ 他校・他地域の様々な活動や課題を異なった視点から知ることができ、視野が広がるとともに今後の取り組むべき課題が明確になった。
- ・ 自分だけでは考えつかない、多くの意見や質問などを聞くことができ、考え方が広がった。
- ・ 全県が集まることで、様々な意見や県の現状を知ることができ良かったが、他地域との協議も行いたい。
- ・ 他の学科の取り組み（販売活動や商品開発など）を知ることができた。
- ・ 他地域でも抱える問題の根源は同じだと気付いた。
- ・ 他者から意見をもらい、客観的に見ることができた。
- ・ 意見をまとめて発表する難しさを知った。もう少し少人数だと話しやすい。
- ・ 話合いの進め方や司会の方法、他者と協力して解決方法を見つけることなど、勉強になった。
- ・ 自校に持ち帰り、今後の探究活動、商品開発に活かしていきたい。
- ・ 今回の機会を契機として、他校生とつながり、話合いや活動をしたい。
- ・ 大人をまきこんで行動できるようになりたい。

～これからも、高校生が主体となって、  
地域に貢献できる活動の探究をつづけよう！～